

## ネットいじめによる高校生への被害と対策

3年4組16番 島村咲希

3年4組38番 山口真央

3年5組8番 大西春花

Keyword: 「ネットいじめ」「心理的要因」「SNS依存」「ネットの特性」「SNSの普及」

## 1. はじめに

この研究課題を設定した動機は、近年、SNSが普及し始め、LINEやTwitter、Instagram等における「ネットいじめ」が増加しており、社会で問題視されていることをテレビやネットで見るときに解決したいと思ったからである。

いじめとは、文部科学省によると『当該児童生徒が、一定の人間関係のある者から、心理的、物理的な攻撃を受けたことにより、精神的な苦痛を感じているもの。』とする。なお、起こった場所は学校の内外を問わない」といったものだという。それに対しネットいじめは、簡単に言うと物理的ないじめのデジタル版である。例えば、通信ゲーム、電子掲示板、ブログなどの匿名性を持つSNSなどを使用することで、身分を隠したまま他人を攻撃することが出来るので、陰湿化・エスカレートしやすいということが問題である。ネット上でのいじめは、物理的ないじめと同様に、嫉妬、妬み、仕返しなどが主に原因となっている。また、物理的ないじめとは違い、いじめの対象となる人が知らないところで掲示板などに書き込まれ、知らないところで人間関係が壊される可能性もある。ネットいじめは大人でも被害を受けるが、小学生や中学生、高校生などのスマホ所有率が年々増加していることも相まって、子供や若者が直面するネットいじめは年々深刻になってきている。文部科学省が公表した令和2年度の問題行動・不登校調査では、パソコンやスマートフォンを通じた誹謗中傷といった「ネットいじめ」の認知件数が1万8870件と過去最多を更新した。小中学生のオンラインゲームでのトラブルが増加しているほか、SNSでのやりとりから不登校に至った事例もあるのだ。

このようにネットいじめは、不特定多数の人達からいつ、どこからでも攻撃を受ける可能性があり、精神的に苦痛を感じる人が多いのである。また陰湿化しやすく、エスカレートしやすいため、いじめ自体が発覚しにくく、自分が気づいたときにはかなり深刻な段階になってしまっていることも少なくはない。そのため、今問題視されているネットいじめを減少させるために、これまでのいじめとの違いを考え、原因となることを調べ解決策を考えていく必要があるのだ。

## 2. 序論

私たちはなぜネットいじめが改善されにくい問題なのか、効果的な解決方法はないのかを考え対策や知識を広めるために探究をした。

この研究課題を解決するにあたって、ネットのいじめに繋がるまでの要因、ネットを使わないいじめとの違いについて考えた。

まず、ネットいじめに繋がる要因としては、『(前略)近年、SNSやブログなどのコミュニケーションツールを介して、若者をはじめとした幅広い世代でネットいじめが発生している。平成30年度間の小・中・高等学校及び特別支援学校におけるいじめの認知件数は543,933件であり、平成29年度の414,378件に比べ約31%増加していることが明らかだ。ネットいじめの件数は年々増加していることがわかる。またネットいじめの発生要因としてSNSへの依存が考えられる。SNSへの依存はネットいじめの関与に強く関係していることが明らかとなっており、特に、インターネットの長時間利用がネットいじめの関与と強い関連があるとされているのである。いじめの要因として「属性の違い」「SNSへの依存」「ネットの特性」「心理的要因」がある。(中略)「いじめ」は40年近くにわたり、子どもたちの学校生活に大きな影響を与えているといえる。それまでの学校の問題として社会に大きく取り上げられていた校内暴力と入れ替わるように問題となったのがいじめであり、校内暴力が抑え込まれことへの反動としていじめは大人の目につかないような形で行わ

れた点について論じている。いじめが問題化したきっかけとして、いじめを苦にした子どもたちの自死が相次いで報道された点を指摘している。』(2021年3月 西川・金子/ネットいじめの実態とその対策)

ネットを使わないいじめとの違いとしては、『これまでのいじめの被害者は「学校」や「教室」から物理的な距離をとることによって、いじめを回避することが可能であった。しかし、ネット社会の進展は、そうしたいじめが「学校」や「教室」の枠を超えて子どもたちに直接誹謗中傷や個人情報暴露する「場」を提供してしまったといえる。当時のネットいじめの舞台の多くは高校生に普及が進んだ携帯電話であった。個人のパソコンを所有する子どもは少なく、誰の目にも触れずにネット空間に入ることができる「ケータイ」は通信料金の安価が進むにつれて、子どもたちの世界にケータイ専用ブログや前略プロフィールなどのプロフィールサイトが流行し、大人たちが仕事や日常で利用するインターネットとは異なる世界を形成していたことが多くの研究から明らかにされている。(中略)いつもいる友達と絶えずメールやSNSをやり取りすることの危うさを指摘した点にある。いじめそのものの視線は2007年以降、社会から薄れつつあった。そこに再びいじめを社会の問題として提起する出来事が生じる。ネットいじめが社会問題として提起されてからその間にいじめの形態や論じられ方も変化している。高校生と同様に小中学生のネット利用が高くなることも十分考慮に入れなければならない。このような現状を踏まえて、さらなる研究を進めなければいけない。』(2021年3月 西川・金子/ネットいじめの実態とその対策)

これらのことから、要因は4つに分けられるということと、これまでのいじめとの違いについて分かった。これらから私たち高校生ができることとして、原因を知り、ひとりひとりが知識を持つことで協力してネットいじめを改善していけるのではないかと考えた。私たちは生徒のネットいじめへの関心度や、どう考えているのか、また解決したいと思っているのかを知るためにアンケートを実施した。さらに、いじめの要因を探究するために奈良県立教育研究所「悩みならメール」に連絡をした。

### 3.本論

アンケートを実施した結果として分かったことは、4つある。1つ目は、ネットいじめについて関心があると答えた生徒は約71%いるということ。2つ目は、『ネットいじめを改善したい』と回答してくれた生徒が約84%もいるということ。3つ目は、「悪質・匿名で人を傷つけている」「簡単に人を傷つけてしまえる」「怖い」「軽視している人が多い」などとネットとネットいじめに対して悪いイメージを持つ生徒が多いこと。4つ目は、今までにSNSを使っていて実際にネットいじめを見たことがある生徒が約63.4%いるということである。これらのことから、ネットいじめに悪いイメージがあり、改善したいと思ってくれている生徒がいることが分かったので、改善策を共有しようと思い、相談室の方に連絡をした。

次に、相談室の方から頂いた大阪府のLINE相談室を元に作成されたPDFより、分かったことが3つある。1つ目は、相談員応答件数の内訳として、高校生の割合は令和2年度時点で約30%ということ。2つ目は、希死念慮(自らの命を絶つことについての考え)の背景として、相談内容の主訴のいじめの欄では20%と低い割合であったが、その中でも高校生の割合が約47%であるということ。3つ目は、相談終了後のアンケートから、とても良かったと回答した人が約50%、解決した人が約18%、解決はしてないがヒントが得れたという人は約37%ということである。

そして、これらの事をPDFにまとめ発表をした。PDFの内容としては、いじめの原因とは何か、普通のいじめとネットいじめではどの点が違うのか、ネットいじめは犯罪になるのか、もし起こってしまったらどういった対策をすればいいのかについて書いた。中でも重要なのは普通のいじめとネットいじめがどのように違うのかという点である。これらの違いは大きく分けて3つあると考えられる。1つ目は、大人の目に触れにくいということである。普通のいじめは先生や友達など、被害者側の周りにいる人達が目にして気づくこともあるが、ネットいじめは携帯の中でおこる出来事のため気づかれにくいことが多い。実際親の目の届かない場所で密かにネットいじめが進行していることもあるようだ。2つ目は、家にいてもいじめの刃が向けられるということである。従来のいじめは物理的に逃げられる場所があるものだと考えられる。しかし、ネット上で起きるいじめの場合

スマホの中でいじめが起こっているため、どこにいてもいじめの刃が向けられている状態になる。このことにより、物理的距離も取りにくくなると言われている。3つ目は、空間と時間の制約がないことである。ネットいじめは行われる場所や時間が決まっていないため、精神的に追い詰められてしまう時間が長いと考えられる。例えば学生の場合、学校内でいじめがあったとき、学校に居る時間にしかいじめを受けることはない。しかしSNSを使ったいじめは、家に帰ってもどこにいてもいじめを受けている状態になる。

これらによって、相談所に連絡する高校生は多くいること、ネットいじめは、周りの人からは気づかれにくいという事、逃げ場がない状態が続いてしまい精神的に追い詰められるものであるということが分かった。したがって、相談所や周囲の人に相談するなど、自分自身で対策することが大事だと考えられる。

#### 4. 結論

これまでの活動の結果としてまとめると、ネットいじめに繋がる要因は主に4つあり、特に「SNSへの依存」「ネットの特性」「心理的要因」の3つが身近である。そして学校内でアンケートを取った結果としては、学年全体を通して、実際にSNSを使う中でネットいじめを改善したいと考えている人が多数おり、悪い印象を持った生徒が多いということが分かった。このことから、実際に被害者の方にお話を聞いているいじめ相談室に連絡をし、いくつか参考になる資料を教えてください。相談室の方から頂いた資料からは、相談される方がどれぐらいいるのか、また、その中でも高校生はどれぐらいいたのか、相談をしてどう感じたのかがわかった。その後ネットいじめについてもっとみんなに知ってもらうため、まとめたPDFを作った。PDFにまとめるために調べたことから、大人の目に触れにくいこと、家にいてもいじめの刃が向けられるということ、空間と時間の制限がないという3つのことが分かった。

これからできることとしては、いじめを減らしていきたいと思っている生徒がいることが分かったため、より多くの人にもっと詳しくネットいじめについて知ってもらう。そのために、自分たちが調べたことやいじめ相談室に相談した結果から、聞いたお話や資料を元に作ったPDFを色々な人に見てもらえる形にしていきたいと考えた。ネットいじめを完全に止めることは出来ないが、私たちが作ったPDFから、ネットいじめがどんなものか、どのようなものがネットいじめになるのかを1人でも多くの人に知って貰うべきである。そして知ってもらった結果、今よりもネットいじめを意識して生活する人が増え、SNSを使用する上で良い環境を作ることが出来ると思う。

#### 5. 参考文献・出典

西川友子「ネットいじめの実態とその対策」『山形県立米沢女子短期大学附属生活文化研究所報告』2021年 P113~124

大阪府教育センター 教育相談室「すこやか相談@大阪府」『LINE相談』2020年P1~9

浅田瞳「ネットいじめの変遷に関する実証的研究」『佛教大学大学院紀要 教育学研究科篇』2021年 P1~16

文部科学省「いじめの定義」「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」における定義 平成24年度

文部科学省「コロナ禍における児童生徒の自殺等に関する現状について」令和3年5月7日